

やまなし自然首都圏構想研究会 第5回自然首都圏構想推進部会概要

1. 日時

令和3年7月8日（木）15:00～16:00

2. 場所

山梨県庁本館2階特別会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者

（座長）東博暢

（委員）清水喜彦、中村成志、藤沢久美、野村明弘、山崎豪敏 ※五十音順、敬称略

（ 県 ）長崎幸太郎知事

4. 主な意見

〔議事『脱炭素社会の実現に向けて』〕

- ・ 電力貯蔵技術研究サイトにおける取組を更に推進するため、色々な企業等を巻き込むことが重要であり、企業等を県に紹介することは可能なので、対応窓口を明確にしていきたい
- ・ 水素・燃料電池は世界的に注目されている分野でありながら、研究者の待遇面も含めて、資金的に厳しい状況にあるため、県のレベルを飛び越えることかもしれないが、対応できないだろうか
- ・ 脱炭素の動きが広がる中でえせ ESG のようなものも増えているが、静岡銀行では、国連の基準に基づいて、脱炭素につながる事業に融資を行う、ポジティブインパクトファイナンスを実施しており、山梨県内でも推進してはどうか
- ・ 電力貯蔵技術研究サイトの更なる発展に向けて、そこで作った水素等について、販売先となる企業を探しているようであれば、協力できる
- ・ P2G システム等の海外展開等に向けては、アピールも大事だが、人のつながりを作ることが重要であり、海外の研究者等の招聘もどんどん進めるべきではないか
- ・ P2G システム等の海外展開等先として想定される中東諸国との連携についても、大学がキーとなる。中東の大学と山梨大学が連携し、人を育てながら、産業創出もできるようなスキームが切り開けると、若い研究者・人材がどんどん育ち、ちゃんとビジネスとしても取り組める研究者が増える

など